

2

出版界の現状とパブリッシングリンクの事業の意味



Speaker Profile

まつだ てつお

松田 哲夫 Tetsuo Matsuda

(株)筑摩書房専務取締役

(株)パブリッシングリンク代表取締役社長

✉ MatsudaT@chikumashobo.co.jp

1947年、東京都生まれ。70年、都立大学を中退して(株)筑摩書房に入社し、編集者になる。浅田彰『逃走論』、『路上観察学入門』、『ちくま文学の森』、赤瀬川原平『老人力』など数々のベストセラーを生み出し、「ちくま文庫」を創刊する。86年、路上観察学会を結成し事務局長に。96年からTBS系テレビ「王様のブランチ」コメンテーターに。97年、『季刊・本とコンピュータ』創刊に参加。01年、(株)筑摩書房専務取締役に就任。03年、(株)パブリッシングリンク社長に就任。著書に『編集狂時代』(新潮文庫)、『これを読まずして、編集を語ることなかれ。』(径書房)、『印刷に恋して』(晶文社、ゲスナー賞受賞)などがある。

Abstract

📄 1996年をピークに出版界の売り上げは下降線をたどっている。売り上げを伸ばすべく、さまざまな試みがおこなわれているが、超ベストセラーの連発の影で、大量の新刊本が店頭の流れ込み、短期間で消えていくという多産多死状態は変わらず続いている。また、日本人の読書スタイルというものが、戦後の蔵書型読書から高度成長の時代にペーパーバック型読書になり、さらには不況時代になってレンタル型読書へと変貌しつつある。一方で、紙の本をつくるプロセスはほぼフルデジタル化されている。こういう出版をとりまくさまざまな状況から、本格的な電子出版を始めようという機運が出版界でも高まってきた。そこに、紙の本を読む感覚に近い読書専用端末も提案された。そこで、ハードメーカー、出版社、印刷会社三者のコラボレーションとしてパブリッシングリンクは発足したのだ。この会社の目指すものは何か、そして、出版の未来はどうなっていくのかを考えてみたい。